

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
国語	国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力 (1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 75% ・全国学力調査の結果によると、全国・都の平均は全ての項目において上回っているが、「書く」、「話す・聞く」の領域において課題がみられる。 ・「書くこと」においては、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することや決められた字数内にまとめることに課題がみられる。 ・「書く」「話す」「聞く」「読む」の全ての領域につながっていると考えられる「語彙力」に課題がみられる。	・短い文を書き、主語・述語の関係を意識させ、正しい文が書けるようにする。 ・日記などの文を書く機会を継続的にもつように心掛け、文を書くことに慣れさせる。 ・漢字の成り立ちや同音漢字などを取り入れるなど、漢字に興味をもって学習に取り組めるように活動を工夫する。漢字を使ったクイズやパズル、ゲームなども取り入れる。 ・互いの書いたものを読み合い、推敲する経験をもつ。 ・相手意識・目的意識を明確にして書くことで、充実感を味わわせる。 ・話型の提示をする。(特に低学年) ・詩の音読や暗唱などを通して、様々な言葉の響きやリズムに触れ、言葉の豊かさを感じるようにする。 ・ペア・グループなど、学習形態を工夫し、「話すこと」「聞くこと」の機会を増やしていく。 ・読書機会を増やすためにも、読書環境を整える。(学級文庫の充実・学校図書館、地域図書館との連携・活用) ・読み聞かせの継続。(保護者ボランティアによる読み聞かせ・教師による読み聞かせ) ・学校図書館を活用し、本を使って調べる機会を増やす。 ・動作化や劇化を積極的に取り入れ、言葉のもつ意味について理解する。 ・音読劇、朗読発表会、俳句鑑賞会など、学習の楽しさを味わえる活動を工夫する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	社会的な見方・考え方を働かせ、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力 (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。 (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う	・技能「資料読み取り」に課題が見られる。資料から読み取るべき情報が何かを理解していないと考えられる。 ・調べたこと(社会的事象)を、比較・分類したり統合したり関連付けたりして、自分の考えをまとめたり表現したりすることに課題がみられる。 →社会的事象の見方・考え方が身に付いていない。	・教科書の学び方コーナーにある、グラフの読み取り方などを活用し、資料の正しい見方や読み取り方を知識として定着させる。 ・地図を積極的に用い、空間的に社会的事象を捉えられるようにする。 ・児童が「社会的な見方・考え方」を働かせられるよう、「社会的事象の見方・考え方」を授業毎に意識させるようにする。そのために、授業において、どのような視点をもって資料を調べたらよいのか、どのような言葉を使って考えをまとめたらよいのかなどを提示する。 ・複数の資料を提示し、そこから必要な情報を読み取り、まとめるような機会をつくる。 ・事実(分かったこと)と意見とを区別して考えるように伝え、板書では、それぞれ色を変えて書く。 ・YES/NOで答えるようなクローズな発問ではなく、オープンエンドな発問で、一人ひとりの考えを引き出す。

令和8年度 授業改善推進プラン

	国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。 (3)社会的事象について、よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。		
--	---	--	--

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	数学的な見方・考え方を基に算数的活動を通して、数学的に考える資質・能力 (1)数量や図形について基礎・基本の概念、性質を理解し、日常の自称を数理的に処理する技能を身に付ける。 (2)日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち、筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質を見出し、統合的・発展的に考察する	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 73% ・「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5つの領域全てにおいて、東京都・全国平均を上回っているが「図形」「変化と関係」「データの活用」領域の正答率が低い。 ・単に公式を使って問題を解くような形式的な理解に留まっている傾向にあることがわかる。 ・「評価の観点」としては、「知識・	・児童の学習の実態に応じ、具体物等で課題解決の見通しをもたせ、事象をイメージしやすくすることで課題解決の支援をする。 ・課題解決の過程では、解決のための見通しを共有し、自分の考えを友達の考えと比較検討し理由付けて説明できるようにする。考えは、式と図、表等と関連付け、表現できるようにする。 ・答えを求めるだけでなく、「なぜそう考えたのか」「どのように判断したのか」を表現する機会を意図的に設ける。 ・自力解決では、机間指導を行い、見

令和8年度 授業改善推進プラン

	力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・適格に表現したり目的に応じて柔軟に表したりする力を養う。(思考力・判断力・表現力等の育成) (3)数学的活動の楽しさや算数のよさに気づき、学習を振り返ってよりよく問題を解決しようとする態度、学習したことを生活や学習に活用しようとする。	技能」よりも「思考・判断・表現」、「選択式」「短答式」より「記述式」が苦手な児童が多い。	童の思考過程を見取る。児童の考え方のよさを具体的に褒めたり、助言をしたりして支援をする。 ・授業の終末には、学習を振り返る時間を確保し、学んだこと、分かったこと、友達の考え等に視点を当てて提示し、記載させる。 ・日常生活を想起して具体的な場面で活用できるような具体例を提示する。 ・作図や立体等操作活動では、体験を通して構成要素を捉えられるようにする。
--	--	---	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力 (1)自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。 (3)自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。	・実験を進めるにあたり、器具や薬品の正しい扱い方や安全に気を付けて行おうとする態度が身に付いていない児童が多い。 ・実験・観察への意欲は高いが、課題を解決するための実験という意識が欠けている。実験・観察を行う際の視点や目的を明確にもっていない。 ・理科の見方・考え方をもとに考察やまとめを考えることに課題がある。	・繰り返し器具に触れさせ、使い方を身に付けていく。また、教師演示をしたり動画等を活用したりして、視覚的に理解できるようにする。 ・器具等の使い方を正しく理解させたうえで、実験方法や進め方を自分で見い出せるよう指導する。 ・児童が自ら課題を見出せるように導入・展開の工夫を行い、見通しをもって観察・実験を進める授業を行えるよう、教材研究を行う。 ・各領域の見方や「比較」「関係付け」「条件制御」「多面的に考える」などの考え方の視点を明示し、実験・観察の際に視点や目的を明確にもって行えるようにする。 ・結果を共有し、考察から課題に対するまとめを話し合う機会を確保する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活科	具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力 (1)活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにする。 (2)身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現することができるようにする。 (3)身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする態度を養う。	・これまで生活科に関する活動や体験の経験に差があり、自分たちで活動の計画を立てることが難しい。 ・身の回りの自然が限られているため、日常的に様々な植物や生き物などに関わったり、触れ合ったりする機会が少ない。 ・活動や体験を振り返り、気付いたことや感じたことを表現することが苦手である。	・多様な体験(見る、聞く、触れる、作る、探す、育てる、遊ぶなど)をさせる機会を多くとり、経験値を増やしてから、自分たちで計画を立てられるように指導を行う。 ・児童の思いや願いを大切にし、次時の活動につなげられるような指導を行う。(学習感想の紹介等) ・校外学習や、地域について詳しく知るゲストティーチャーを招いた授業を行うことで、地域について学んだり、自然を大切にする気持ちを育んだりすることができるようにする。 ・試行錯誤を繰り返す活動を設定する。 ・伝え合い、交流する場を多く設定する。同学年だけでなく、保幼小連携で、保育園・幼稚園との交流を積極的に行い、表現し、伝える場を増やす。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力 (1)曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音	・音楽から様々な情報を感じてできるが、それを演奏に生かして表現したり、他者に伝えたりするところまで深めるところに課題がある。 ・意欲的に学習に取り組むことができるが、技能を高めるための学習の進め方に個人差が大きいと	・既習事項を活用しながら6年間の学びがつながるように、見通しをもった指導計画を作成する。 ・個人、ペア、グループ、全体の様々な形態で、自他のよさを見付けながら学習を進める活動の時間を多く確保する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	楽表現をするために必要な技能(知識・及び技能)を身に付けるようにする。 (2)音楽表現を工夫すること、音楽を味わって聴くことができるように、思考力・判断力・表現力等の育成をする。 (3)音楽を愛好する心情と音楽に対する感性、音楽に親しむ態度、豊かな情操を養う。(学びに向かう力、人間性等の涵養)	ころが課題である。	・本物の楽器を見たり、聴いたり、演奏したりする機会を取り入れる。 ・既習事項を用いた対話を促し、知識の定着を図る。 ・共通事項を軸におき、歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりを関連させながら、曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解を深め、学んだことを表現に生かせるように指導する。 ・主体的に表現や鑑賞の実体験を積むことで音楽活動の楽しさを経験し、友達と一緒に演奏する喜びや多様な表現に触れる体験を積み重ねることで、一層豊かな情操を培うようにする。
--	--	------------------	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力 (1)対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解するとともに、材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりすること(知識及び技能) (2)造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え、創造的に発想や構想をすること(思考力、判断力、表現力等)	・造形的な見方・考え方を児童が十分に働かせた学習展開が必要である。 ・日常生活と関連させて造形的な良さや美しさ、表したいことを想起することに課題がある。	・平面、立体工作、造形遊び、鑑賞をバランスよく取り入れ、6年間の学習の見通しをもった指導計画を作成する。 ・タブレットなどの ICT 機器を取り入れ、自分の活動を振り返るなど、鑑賞の方法を工夫する。 ・共同してつくりだす活動を取り入れ、様々な発想や構想、アイデア、表し方などがあることに互いに気付き、表現や鑑賞を高め合えるようにする。 ・児童が個性を生かして活動することができるように、表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにする。 ・すすんで楽しむ意識をもたせながら資質・能力を育成するために、造形遊びを積極的に行う。

令和8年度 授業改善推進プラン

	(3)つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)		・道具の扱い方については、安全面や使いやすさを児童に考えさせながら指導する。特に安全面においてはなぜそのように使うのかも細かく指導する。 ・様々な素材を扱う経験を低学年から積み重ね、表したいことに合わせて材料を選択できるようにする。
--	--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力 (1)家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。(知識及び技能) (2)日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。(思考力、判断力、表現力等) (3)家庭生活を大切にすること、心情を育み、家族や地域の人々とのかかわり	・日常生活における経験の差が大きい、実習などで、自分から取り組むことのできる子とできない子との技能の差が見られる。 ・日常生活と関連付けたり、家族の一員として生活をよりよくしようという意欲をもったりして学習に取り組めていない。	・実習の機会を増やす。 ・実習などのグループ活動において、教材や教具を工夫し、一人一人の活動時間や場を保証する。 ・積極的に地域コーディネーターや保護者に声を掛け、個別の支援ができるようにする。 ・調理や製作等の手順の根拠を考えたり、調理道具の安全な使い方や衛生について考えたりするなど、実践的・体験的な活動を充実させる。 ・日常生活の中に家庭科に関わる課題を見付けられるように発問を工夫する。 ・家族との時間を振り返り、学習内容を家庭で活用できないか考えさせる機会を増やす。

令和8年度 授業改善推進プラン

	を考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)		
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	体育や保健の見方・考え方を働かせながら、自ら課題を見いだし、その解決に向けて主体的に学ぶ過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたり心身の健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現するために必要な資質・能力 (1)運動の特性に応じた基本的な行い方や、身近な生活における健康・安全について理解するとともに、それぞれの運動に必要な基本的な動きや技能を身に付ける。 (2)運動や健康に関する自己の課題を見いだし、その解決に向けて考え、判断し、自分の考えや工夫を他者に伝える力を養う。 (3)運動に親しみ、健康の	・体力テストの結果から、体幹の筋力や走力に課題が見られるとともに、体力の個人差が大きい実態がある。 ・学習評価の結果から、ボール運動・器械運動・水泳において技能への自信を十分にもてない児童が多いこと、課題解決に向けて主体的に思考・判断する力に課題が見られること、さらに勝敗や順位への意識が強くなり過ぎる傾向が見られる	・体力テストで見られた課題の改善に向けて、児童一人一人が事前に目標を設定するとともに、基本的な動きの習得や用具への慣れを十分に図った上で測定に臨めるよう、スモールステップによる指導を充実させる。また、指導時期を前倒しするとともに、授業における十分な運動量を確保し、ゲストティーチャーの活用を進める。さらに、休み時間には外遊びやボルダリング、一輪車などを積極的に推奨し、日常的な運動習慣の定着を図る。 ・技能に自信をもてない児童も安心して意欲的に学習に取り組めるよう、基礎感覚を養う補助運動を継続的に取り入れるとともに、一人一人の技能の実態に応じた練習の場を設定する。 ・課題解決に向けた思考を深め、自分の考えを表現できるよう、ICT を活用した振り返りや動きの分析を取り入れるとともに、チームで具体的な解決方法を話し合う場を設ける。また、副読本や学習資料を根拠として活用しながら、自分の考えを伝え合

令和8年度 授業改善推進プラン

	保持・増進や体力の向上を目指して主体的に取り組むとともに、仲間と協力しながら、明るく豊かな生活を営もうとする態度を養う。		う学習活動を充実させる。 ・勝敗や順位、できる・できないことのみ価値を置くのではなく、学習のねらいを明確にした授業づくりを行う。そのため、身に付ける動きを具体的に示し、一時間ごとのめあてを明確にするとともに、互いのよさを認め合い、励まし合う活動を通して、児童同士が高め合う関わりを大切にす。また、導入では学習の目的を明確に示し、終末ではその目的に沿って振り返るなど、一時間の学習過程を意識した指導を行う。
--	--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	外国語活動(第1～4学年) 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力 (1)外国語を通して、言語や文化について、体験的に理解を深め、外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。 (2)身近で簡単な事柄について、外国語で聞いた話したりして自分の考	・意欲的に英語を使った学習活動に参加する児童が多い一方で、恥ずかしさや日常的に英語に触れていないことによる苦手意識などから、活動に対して消極的な児童が見られる。 ・英語を使ったゲームなどを行う際に、勝ち負けや数などに執着してしまい「外国語を使ってコミュニケーションをとる」という目的意識をもてていないことがある。 ・インタビュー活動など、クラスの友達とすすんでコミュニケーションをとろうとする一方で、質問の仕方や答え方等を混同している様子が見られる。(中学年) ・話すことの領域の個人差が大きい。(高学年)	・技能「聞く・話す・書く・読む」に偏りがなく、毎時間の授業構成の工夫を図り、授業の流れのスタンダードを計画する。 ・音声を中心とした学習活動を行っていく。低学年ではアルファベット、簡単な固有名詞の発音をネイティブティーチャー(NT)の音声、視聴覚教材を活用しながら「聞く」活動、音声に慣れる活動(歌やリズム、チャンツ)を重点的に指導する。高学年では音声から文字化(簡単な単語の書き取り、簡単な英語の文章の作文、さらに意欲のある児童は、英検問題に挑戦)へ進め、中学校英語に向けての橋渡しとなる活動を行う。 ・各単元、毎時間の学習のゴールやめあてを児童に伝えることで、児童が見通しをもって学習に取り組めるよ

令和8年度 授業改善推進プラン

えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。 (3)外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。 外国語科(第5・6学年) 外国語によるコミュニケーションにおける見方、考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質、能力 (1)外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気づき、これらの知識を理解するとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、4技能による実際のコミュニケーションにおいて、活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。 (2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ		うにする。また、NT の話す言葉に興味をもてるように、児童にとって身近かな話題でのやりとりをスモールトークなどに取り入れる。また、児童が外国や日本の文化に興味をもてるよう教材を工夫する。 ・外国語の本コーナーを学校図書館に設置し、外国語への興味をもたせる。 ・児童が学習した、英語表現を使う機会を多く設定し、「話す」経験を豊かにする。 ・教師がすすんで声を出して、英語を使う。その姿を児童に見せる。また、活動に対して消極的な児童には声掛けを適切に行い、他の児童と外国語でのコミュニケーションを図ることができるようにする。 ・ゲームや歌をすすんで活動に取り入れ、遊びの中で児童が外国語に親しむことができるようにする。 ・ゲームのルールを説明する際は、発達段階に応じて、学級担任が NT の英語での指示を、日本語に訳して説明したり、しっかり理解しているか確認したりして、児童がルールや目的を「分からない」状態で活動を行うことができるだけないようにする。 ・ゲームの活動を行う際には、「外国語でコミュニケーションをとる。」「何を尋ねて、何を答えるのか。」という目的意識をもたせる。 ・高学年では、話す機会を増やすため、また、英語で話すことを意識づけるため、単元末にスピーチや NT との一对一での英語での会話などの活動を取り入れる。また、評価にも生
---	--	--

令和8年度 授業改善推進プラン

	親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測して読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基本的な力を養う。 (3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。		かす。 ・ゲストティーチャーとして様々な国の人を招き、多様な文化に触れる機会を設ける。
--	--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考える学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。	・児童が教材の時代背景や登場人物の言動の背景を理解できず、めあてや価値項目に対して、学習内容がずれてしまうことがある。 ・自分の考えや意見をもてない、他者に伝えられない児童がいる。 ・学習した道徳的価値を、児童一人一人の日常生活に生かせていない。	・導入での発問や教材提示の仕方を工夫する。(大型絵や紙芝居、パネルシアター、ペープサート、ICT 機器の活用など) ・教科書のページの順番に教材を活用するのではなく、児童の実態や実際の出来事、行事などを踏まえて適切な教材を選び、発問を精選する。 ・教師が終末での説話などで自身で自分自身の経験や体験談を話し、児童が自分のことを振り返るためのモデルを示す。 ・様々な形態での話し合いや役割演技などを取り入れること、児童が自分の考えや意見を持ち、発信できる

令和8年度 授業改善推進プラン

			ようにする。 ・展開後段で教材の内容からは離れ、自分たちの経験や体験から価値項目について一人一人が考えることができるよう授業の進め方を工夫する。
--	--	--	---

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に、自主的実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。 (1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。 (2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりすることができるようにする。 (3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けた	・自主的に係活動に取り組む児童とそうでない児童の差がある。 ・学級会の回数が少なくなりがちになってしまう。 ・話し合い活動の進め方、発言の方法におけるルール、マナーが身に付いていない。 ・委員会やクラブ活動において、異年齢の児童同士で協力し、児童主体の運営となるよう工夫が必要である。	・定期的に係活動の時間を確保し、活動の目的を共有したり、振り返りを行ったりと互いの活動に着目する場を設ける。(朝の会・帰りの会・給食等) ・主体的に取り組む児童や係を称賛し、活動への意識をもたせる。 ・定期的な学級会の設定、議題 BOX 等の設置による児童主体の話し合いなど工夫を図る。 ・学級会のルールの徹底、児童で進められる基本の進め方を提示する。 ・国語科と関連させ、円滑な話し合いが進められるようにする。 ・児童が主体的に組織を作り、学校生活の課題を解決するために、考え運営できるよう、教師が適切に指導する。 ・児童の発意・発想を生かした児童会活動・クラブ活動の計画を作成する。

令和8年度 授業改善推進プラン

	ことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。	
--	--	--

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を養う。 (1)課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解する。 (2)実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現する。 (3)探究的な学習に主体的・共同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。	・自己のテーマをどのように決めるか(課題設定)を検討する力が弱い。 ・探究する力が弱い。 ・分かりやすく情報を整理したり、選択したりする力に個人差がある。 ・振り返りを通して、成果と課題を分析できない。	・どの学年も課題の発見、情報収集、整理・分析、まとめ・表現のサイクルを意識して学習計画を立て、探究的な学習ができるようにする。 ・日頃から探究活動がしたくなるような環境整備を行う。 ・自分の興味に基づいた課題や方法を自己決定する場を作る。 ・ICTや図書資料の活用、ゲストティーチャーの活用により、効果的な情報の収集・体験活動を行い、児童の思考が深まるような工夫をする。 ・思考ツールや付箋など、情報の整理・分析の仕方を指導する。また、まとめ・表現の方法については、いくつかの方法を示し、児童がよりよいものを選択できるようにする。 ・振り返りの場面を設定し、教師が適切な助言、指導をすることで、自らの学びを価値付けたり、新たな学びにつなげたりできるようにする。